



## 北陸の夏—城端，絵解きの旅—

阿部 泰郎（比較人文学，人類文化遺産テキスト学研究センター）

夏の真盛りの七月下旬，授業期間が終わるのを待ちかねるように名大キャンパスを飛び出し，東海北陸道をひた走り，長いトンネルを抜け，富山県砺波平野の南砺市にある城端へ向かいます。町の中心，城端別院善徳寺で催される虫干法会に学生と共に参加するのです。

学生たちは，この法会で披露する，聖徳太子絵伝の絵解きに取り組み，三ヶ月間準備してきました。本番を見まもり，さまざま裏方の役割をつとめながら，この，日本の深い歴史風土と豊かな伝統文化の息づく場に過ごすことを，何より楽しみにしています（この時にお齋で出される鯖ずしの風味も，その欠かせない一部です）。

別院の依頼から始まった名大生による絵解きは，もう八年間も続いています。これまで，二十人を超える学部生，院生，留学生たちが挑戦し，自作の台本を覚えて，法会に集う大勢の方々の前で聖徳太子の伝記を語りました。その経験は，一人ひとりの大切な思い出となり，これを聞いてくれた城端の人たちにも，毎夏の風物誌として親しまれています。

日本仏教そのものというべき浄土真宗の独自の歴史と文化の中から生まれた絵解きは，隣町の井波別院の聖徳太子絵伝絵解き説法「太子伝会」を中心に，城端別院では蓮如絵伝が行われています。これらに学び，名大文学部の専門分野の研究を通して更に深めていった成果を，公開することになります。それは，大学の研究・教育を地域社会と連携する試みの一端です。

これは，今年度から発足したばかりの「人類文化遺産テキスト学研究センター」の活動の一環です。来年には，更に井波と城端で「絵解きフォーラム」もお寺と共同して開催する予定です。皆さんも，私たちと一緒に南砺に行きませんか。

虫干法会と絵解きの研究活動の成果は，別院の刊行物として，我々が執筆・編集した『城端別院善徳寺の虫干法会』（DVD付き）として公刊されました。お読みになりたい方はセンターまでご連絡下さい。

nagoya.cht.archives@gmail.com



研究室紹介—File14

## 講義と，演習と，それから研究

研究室名：中国哲学研究室

中国哲学の研究室は文学部棟の三階にあります。部屋の半分は書籍で埋め尽くされており，もう半分は主に講義・演習その他の研究活動のために使われますが，それ以外のときは在籍者の憩いの場ともなります。普段は和気藹藹，時に侃侃諤諤，まれに喧喧囂囂，なかなか活気のある研究室です。

研究の対象としては勿論『論語』などの中国の古典籍が選ばれることが多いですが，中国哲学の授業で得た知識が活かされるもので



あればその限りではありません。実際、日本人が書いた漢文を研究している在籍者もいます。

さて、研究のためには当然漢文を読む訓練をしなければなりません、研究室としては講義形式と演習形式の授業によってその力を養います。

講義では漢文を読む上で必要な背景的知識を習得します。例えば、時代背景というものは、思想に少なからず影響を与えます。身分が固定化した社会と実力で身分が入れ替わりうる社会で考え方が異なることは、容易に想像できるでしょう。

演習では特定の文献を精読していきます。精読とは、一字も蔑ろにすることなく精密に読むということです。受講生は事前に辞書を引ながら予習し、授業では先生の御指導の下、訓読の技法など辞書には載っていない知識を獲得します。

また、古典の引用や典故についても折に触れて解説されます。中国の知識人は膨大な古典を読み、一部ないし全部を暗記し、それらを踏まえたうえで文章を構成していました。彼らの文章を読むためにはそうした知識を多く集積することが重要です。

こうした授業で得た知識を活用して、それぞれの関心にあった人物・書籍の思想的側面を研究していくのです。

[服部 寛風 (博士前期2年)]

### 研究室紹介—File15

## 西洋史学研究室～広大な版図のもとに～

研究室名：西洋史学研究室

頭の中に世界地図を思い浮かべて下さい。イメージできたら、その地図から日本と中央アジア以外のアジアの国を除いて下さい。それが、西洋史学がカバーしている領域です。では、その領域の中であなたが好きな地域の好きな時代を自由に思い浮かべて下さい。古代ギリシア、中世フランス、近代アメリカ、現代アフリカ... さまざまなシーンが浮かぶことでしょう。では更に、そのシーンで特に印象的なものを思い浮かべて下さい。物でも人でも事件でも構いません。イメージができたでしょうか？西洋史学研究室の活動を簡単に表すならばこうなるのです。

何しろ時代も地域も広いので、皆の興味も様々です。その中で私たちは講読・演習・講義の3種類の授業を通して、自分たちの研究のためのスキルや方法論を学びます。講読で外国語力を鍛え、演習で史料の扱い方を知り、講義で歴史を紐解く様々な視点を学びます。そうやって得た知識を活用して、自分が好きな地域と歴史を探求していくのです。

勉強ばかりではありません。西洋史学の人たちは皆フレンドリーです。皆で飲みに行ったり旅行をしたり、私たちの研究室は人との交流を深める場でもあります。そうして和気あいあいとした雰囲気の中で起こる新たな発見もあるのです。

なんとなく雰囲気は伝わったでしょうか？少しでも興味を持っていただけたなら幸いです。さあ気心知れた仲間と一緒に、この広い世界へ飛び込みましょう。そして古人の知恵に触れることで、大きな人間へと成長していきましょう。ここでの経験はきっと一生の糧となっていきます。

[東埜 文香 (学部4年)]



最近の文学部

## 夏休み

高校はもう授業が始まっている頃ですね。大学の夏休みは高校より少し長いので、名大の学生はまだ夏休みを満喫中。学生の少ない静かな校舎では、落ち着いて論文が書ける反面、ちょっと寂しくもあります。(K記)

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)